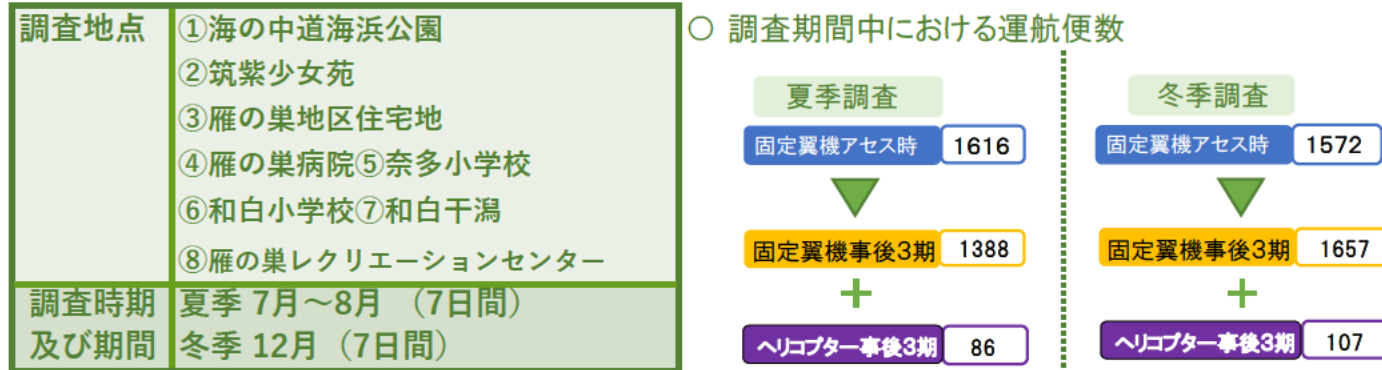


令和4年度 福岡空港回転翼機能移設事業環境影響評価に係る事後調査報告書（第3期 中間報告）概要版

福岡市環境影響評価条例第29条に基づき奈多ヘリポート供用後に実施する事後調査について、令和4年度の調査結果がまとまったので、概要版を整理した。

環境影響評価書に定めた5つの項目の内、航空機騒音と超低周波音について調査を行い、ヘリポート供用に伴う環境影響の評価結果をとりまとめたものである。なお、カヤネズミ、鳥類、生態系については、令和3年度までの調査で環境影響評価時からの回復が見受けられたため調査は第2期で終了している。

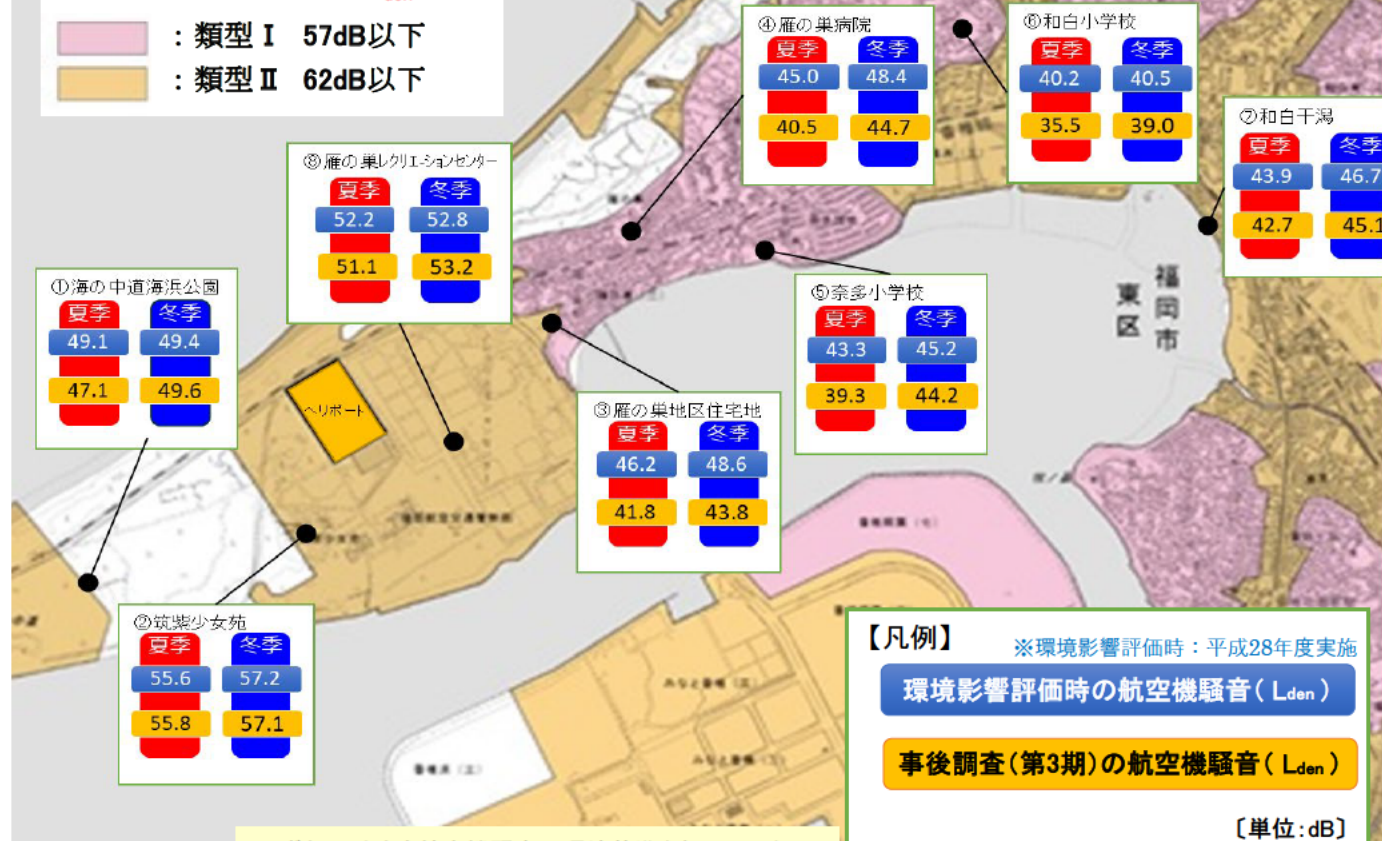
(1) 航空機騒音



事後調査(第3期：令和4年度)の調査結果 評価基準：「航空機騒音に係る環境基準」との比較

航空機騒音の環境基準(L_{den})

： 類型Ⅰ 57dB以下
 ： 類型Ⅱ 62dB以下



いずれの地点も航空機騒音の環境基準を超えていない。

いずれの地点においても航空機騒音の環境基準を満足している。

(2) 超低周波音

調査地点	航空機騒音と同地点	調査時期及び期間	夏季 7～8月（2日間） 冬季 12月（2日間）
------	-----------	----------	-----------------------------

■ 超低周波音とは

超低周波音とは人の耳では特に聞こえにくい音を指し、定常的に発生するものについては建具のがたつきや心理的・生理的な影響を及ぼす可能性がある。航空機については、低周波音を生じる可能性があることから、今回調査を行った。

各目標値の達成状況について

A：圧迫感・振動感 B：建具のがたつき

○夏季調査 超低周波音1/3オクターブバンド音圧レベル調査結果 単位: dB

調査地点名	AP 平均	5.0	6.3	8.0	10.0	12.5	16.0	20.0	25.0	31.5	40.0	50.0	63.0	80.0
A：圧迫感・振動感の目標値	—	115	111	108	105	101	97	93	88	83	78	78	80	84
B：建具のがたつきの目標値	—	70	71	72	73	75	77	80	83	87	93	99		
アセス時		75.3	48.5	48.8	51.1	55.9	60.4	63.1	63.7	67.2	69.9	69.2	70.5	72.8
事後3		84.4	61.0	60.4	59.8	57.9	59.2	60.8	64.5	79.5	74.6	65.3	74.4	65.0
アセス時		84.8	74.1	71.8	72.6	75.0	75.5	73.8	74.9	75.9	69.7	69.4	67.1	69.8
事後3		99.1	56.8	57.2	59.1	60.2	62.7	67.7	83.0	97.1	71.7	82.8	81.5	83.1
アセス時		83.3	54.5	53.2	59.8	65.6	67.9	67.9	69.9	72.4	73.8	74.6	74.7	73.3
事後3		82.4	54.4	53.6	57.5	55.4	57.1	59.5	67.6	77.7	61.6	64.9	75.0	71.8

○冬季調査 超低周波音1/3オクターブバンド音圧レベル調査結果 単位: dB

調査地点名	AP 平均	5.0	6.3	8.0	10.0	12.5	16.0	20.0	25.0	31.5	40.0	50.0	63.0	80.0
A：圧迫感・振動感の目標値	—	115	111	108	105	101	97	93	88	83	78	78	80	84
B：建具のがたつきの目標値	—	70	71	72	73	75	77	80	83	87	93	99		
アセス時		108.7	93.6	90.6	83.9	82.6	79.5	76.6	74.9	72.7	69.5	67.0	64.7	69.9
事後3		100.4	50.1	50.1	56.0	60.1	59.9	73.9	86.4	96.6	74.7	63.7	91.2	84.9
アセス時		99.7	80.4	78.9	71.2	69.8	64.4	61.9	60.1	59.0	58.6	57.2	54.8	58.5
事後3		101.9	53.4	58.9	58.7	61.8	66.5	70.6	94.9	99.9	73.9	66.3	91.3	84.9
アセス時		100.6	82.8	83.0	82.3	80.1	79.8	77.1	73.1	74.6	68.3	66.2	65.3	65.0
事後3		89.4	65.5	59.7	61.4	57.5	57.4	57.2	78.4	85.4	63.3	73.2	79.2	83.0

※表中の「AP」は1～80Hzのバンドごとの音圧レベルの総和である合成レベルを示す。

※ ハッチング箇所は、低周波音の評価の目安で示した目標値を超えた箇所を示す。

： A圧迫感・振動感の目標値を超えたもの
 ： B家具のがたつきの目標値を超えたもの
 ： 上記A,Bのいずれも目標値を超えたもの

※APの値の赤字は2日間全測定データの中でヘリコプターの値が最大であったものを示す。

※表中の「アセス時」は「環境影響評価時」を、「事後3」は「事後調査第3期」を示す。

C：睡眠影響

冬季	調査地点名	1/3オクターブバンド中心周波数(Hz)：平坦特性のAP最大音圧レベル発生時(dB)	単位: dB
		10.0	20.0
○	睡眠影響の目標値	100	95
アセス時		82.6	74.8
事後3	①海の中道海浜公園	60.1	95.4

睡眠に及ぼす影響の目標値を超えたもの

居住地における音圧レベルの屋内・屋外比較(筑紫少女苑)

調査地点名	AP (平均)	5.0	6.3	8.0	10.0	12.5	16.0	20.0	25.0	31.5	40.0	50.0	63.0	80.0
A：圧迫感・振動感の目標値	—	115	111	108	105	101	97	93	88	83	78	78	80	84
B：建具のがたつきの目標値	—	70	71	72	73	75	77	80	83	87	93	99		
事後3		99.1	56.8	57.2	59.1	60.2	62.7	67.7	83.0	97.1	71.7	82.8	81.5	83.1
夏季		80.0	51.0	48.6	49.3	61.7	58.0	57.4	81.4	80.9	54.1	62.5	63.1	53.9
事後3		101.9	53.4	58.9	58.7	61.6	66.5	70.6	94.9	99.9	73.9	66.3	91.3	84.9
冬季		86.1	40.5	49.0	45.6	46.0	50.2	66.3	65.9	66.4	49.0	53.6	54.9	54.5

近隣の3つの地点において一部の周波数帯で目標値の超過が見られ、その継続時間は最大約28秒、居住施設内においては最大約11秒であった。

睡眠影響については、目標値を超えたのは住居の使用の無い①海の中道海浜公園の昼間の時間帯で1回であった。学識経験者で構成される事後調査委員会において、超低周波音の発生状況は単発の発生で短時間であることの確認がなされている。



国土交通省大阪航空局
令和6年9月